

祝 詞

学生スポーツの応えるべき使命



(財)日本レスリング協会

会 長 笹原 正三

JOC副会長

国際レスリング連盟が誕生してからまだ85年しか経っていない。レスリング競技は、近代五輪の発足以来第1回「1896年アテネ五輪」から実施されている最老舗の国際競技スポーツである。ところがその国際連盟の誕生は、1912年の第5回ストックホルム五輪までまたなければならなかった。しかも当時の連盟母体はレスリングを含める複合競技同盟であった。そして1921年ようやく「国際アマチュアレスリング連盟」がIOCの勧告によって独立することになる。一方で1932年に大日本アマチュアレスリング協会が設立されてから、わずかに65年ほどの歳月しか流れていない。

関西大学レスリング部が創設されて「50年」。この歳月は、上記の「85年」と「65年」とに比べてみるならば、いかなる意味においても遜色のない一大「歴史」である。しかも「50年」には、一期一会のドラマが刻みこまれている。世界のレスリングにも、日本のレスリングにも、関西大学のレスリングにも、その時々の人びとの登音が、青年の息吹をとまなわて、いまなお高らかに響きわたっているはずである。とりわけあの終戦直後の日本の混乱期にあつてさえ、「学生」の情熱が、関西大学レスリング部を創設させしめたという事実は、ひとり関西大学関係者のみならず、すべてのレ

スリング愛好家が、すべてのスポーツ愛好家が誇りに思うべき普遍的な足跡に相違ない。

さて日本のレスリングは、その発足当初から、大学レスリングによって支えられてきている。そこに関西大学の「50年」がおおいに関与していることは万人の認めるところである。いま手元にある関西大学レスリング部関係資料からも、その命脈が、克明に伝わってくる。ここに最大級の敬意を表しておきたい。加えて、これからも、学生スポーツ界のリーダーとなって活躍されんことを祈念しておきたい。

近代オリンピックが始まって100年。その理念のひとつに、「スポーツ教育をとおして若人の相互理解と友情を深めて、もって、平和な世界を建設する」ことが掲げられている。この理念のために我がレスリングは少なからず貢献してきた。そう、自負してよい。だが「100年」間の世界の流転はともすればこの平和理念を不当に低く見積もってきたのではなかったか。関西大学の「50年」の知恵の継承と、我らレスリング仲間の心意気とで、かかる状況を打開しようではないか。学生スポーツがこの使命に応えるとき、新しいスポーツの世紀が始まることになる。関西大学レスリング部の実践に期待したいものである。